

SDGsから私たちの言葉・行動へ

氏名： 片上 綾子 学校名： 摂津市立鳥飼北小学校
 担当： 日本語指導 実践教科： 総合的な学習の時間
 時間数： 1時間 対象学年： 5年生 人数：58名

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標（評価の観点を意識して設定）

- ・外国にルーツのある人々の思いを考え、理解する。
- ・日常生活の中にある何気ない差別や偏見に気づく。
- ・気づいたことを自分の意見として発信する。

【2】 単元の評価 規準例	(ア) 知識・技能	・SDGsの概要について知る。 ・マイクロアグレッションについて知る。
	(イ) 思考・判断・表現	・外国にルーツのある人々の思いについて考える。
	(ウ) 主体的に学習に取り 組む態度	・班活動で自分の意見を伝える。 ・全体交流で意見を伝える。

【3】 単元設定の理由	<p>【児童観】 本校の5年生は、1年間を通してSDGsの学習に取り組んでいる。1学期にはSDGsの概要を学び、17個の目標が設定されていることや「誰ひとり取り残さない」社会を実現するために日本国内で様々な取り組みが行われていることを学習した。夏休みには家でできるSDGsの取り組みについて考え、実践した。2学期は世界に視野を広げ、17の目標が誰の幸せにつながっているのかということについて考える取り組みを行っている。授業や行事に集中して取り組める反面、自ら進んで活動に取り組んだり、意見を伝えたりする児童が少ないことが課題であった。身近なところから正しいこと、そうでないことを自分で判断し、おかしいと思ったことに対して声を掛けていく力をつけるためにマイクロアグレッションについての学習を提案した。</p> <p>【教材観】 大阪府在日外国人教育研究協議会（府外教）が発行している冊子『ちがいでドキドキ多文化共生ナビ』の中に掲載されている教材「無意識の言葉が心に刺さる～気づいてほしいこの思い～（マイクロアグレッション）」を活用した。教材を通して、日常生活の何気ない言動が無意識のうちに差別や偏見に繋がっているかもしれないと考えること、SDGsで学んだことを身近な課題として捉え、行動に移す力につなげることを目標とする。</p> <p>【指導観】 SDGsの学習内容が多岐に渡っているため、授業の導入ではキーワードを提示しながらこれまでの学んできたことを整理する。誰ひとり取り残さない社会を実現するためには、目標10「人や国の不平等をなくそう」を達成する必要がある。具体的に私たちにできることとして、多面的に物事を捉えて知ること、多様な考えを理解することだと確認したうえで、本学習を進めた。</p> <p>展開では、自分の考えをもって意見交流ができるようにした。はじめに個人で考える時間を設定し、ワークシートに自分の考えを書くようにする。次にJamboardを使い、班で意見を整理できるようにする。多様な意見を出し合い、まとめていく過程を通して自分にはない新たな考えに触れたり、同じような意見に共感し合ったりできる場面を設定する。</p> <p>まとめでは、私たちの身の回りにも無意識の差別や偏見があることに気づけるようにする。また、SDGsの目標を達成するために行動へ移していくことが求められていることを伝え、自分ごととして考えられるようにする。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 児童/生徒観 ✓ 教材観 ✓ 指導観 ✓ 設定時に想定された児童・生徒の変容 	

【4】展開計画（全4時間）			
時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	身近な課題から広げよう  	【世界の子どもたちと SDGs】 ・世界には学校で教育を受けられない子どもたちがたくさんいることを知る。 ・学校に行けない理由と教育を受けられないことが貧困の連鎖に関連していることを知る。 	「生きる力」を育む国際理解教育実践資料集 第1章世界の現状を課題 第4節：教育の問題 ワーク(2)教育が受けられないことで起こる「負の連鎖」 (2019.10 JICA 地球ひろば)
2	世界とのつながり・国際協力について学ぼう  	【JICA 関西見学】 ・社会見学の一環として訪問した。 ・SDGs 展示の見学 →資料や展示物に触れながら、SDGs と日本、世界とのつながりを知る。 ・講和（国際協力について） →世界とのつながりをより具体的に知るため、海外協力隊経験者の方に講和をしていただいた。 開発途上国に支援することだけでなく、日本も援助してもらっているということを知った。	 
3	「誰一人取り残さない」について考えよう 	【市内人権作品展に向けて】 ・SDGs の目標を達成することでどのような人たちの幸せにつながるのかということ考えた。 17 の目標カードの表面に現状を表すイラスト、裏面に達成できたときの様子を表すイラストをそれぞれ描いた。 ・日本語教室の児童は、SDGs の歌を作詞し、様々なながいを越えて人々がつながることの大切さを表現した。	 
4 本時	言葉と行動につなげよう  	【無意識の言葉と差別・偏見に気づく（マイクロアグレッション）】 ・これまでの学習を振り返る。 ・人や国の不平等をなくすためには、多面的に物事を知り、理解することが必要だということを確認する。 ・マイクロアグレッションカードに書かれている事例をもとに、外国にルーツのある人たちの思いを考える。 ・身の回りにも何気なく言った言葉が相手にとっては傷つくと感じる場面がないかを考える。	・『ちがいでドキドキ多文化共生ナビ』 P.66～⑦マイクロアグレッション レッスン (2017 大阪府在日外国人教育研究協議会) 

【5】 本時の展開			
過程 時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ SDGs についてこれまでに学習してきたことを振り返る。 ・ 目標 10 の内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ キーワードにまとめて簡潔にすることで、児童が要点を押さえられるようにする。 <p>持続可能な開発目標 17 の目標 169 のターゲット 2030 年まで 世界中の国が協力 誰ひとり取り残さないなど</p>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">外国につながる人たちの思いを考えよう</div>			
展開 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ マイクロアグレッションについて考える。 <p>①おかしい・言われたら嫌な気持ちになる事例を選ぶ。言われた人の思いを想像し、ワークシートに記入する。</p> <p>②Jamboard を活用し、班で意見を出し合う。</p>	<p>例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「その名前(本名)じゃなくて、日本の名前はないの?」 ・ 「中国語しゃべってみて。」 ・ 「私もハーフになりたかったな。」 ・ 「いつ日本に来たんですか?」 ・ 「大丈夫!日本人に見えるよ。」 ・ 「外国にルーツがあるとかないとか、気にしないよ。今まで通り友だちだ。」 ・ 「〇〇さんも面倒くさがらずに、選挙にいかなあかんで。」 <p>※児童だけで考えることが難しいカードについては、補足説明をする。(在日外国人の歴史的経緯、選挙権など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 司会、記入、タイムキーパー、発表の役割を決めてから進めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 府外教『ちがいでキドキ多文化共生ナビ』P.66～⑦マイクロアグレッション
まとめ (10分)	<p>③全体交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身の回りにあるマイクロアグレッションについて考える。 ・ 身の回りの言動で気になることがあった時にどのような行動をとるのかを考える。 ・ 2030 年までの目標達成に向けて「行動の10年」と言われていることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な場面を例に挙げながら、日常生活の中にある何気ない言葉がマイクロアグレッションにつながると気づけるようにする。 ・ SDGs の目標に繋がりがあること、それぞれの目標が関連していることを確認する。 ・ 行動には多様な方法があることを伝える。(意見発表、作文、グループ交流、相談など) ・ 知って理解するだけでなく、行動に繋げていくことを意識できるようにする。 	
【授業実践の様子】			



全体で SDGs のおさらい



Jamboard で意見を共有

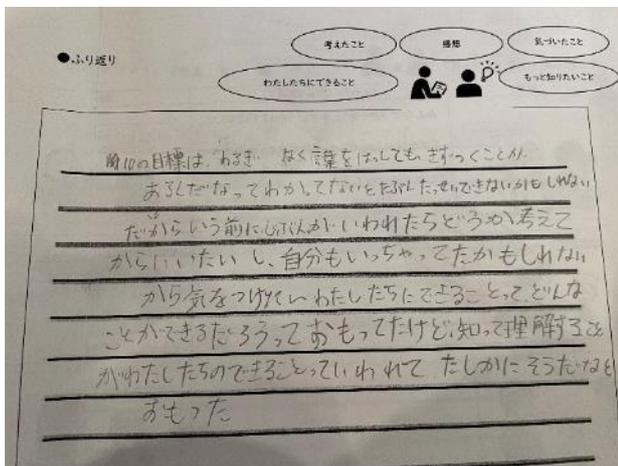


全体で意見交流

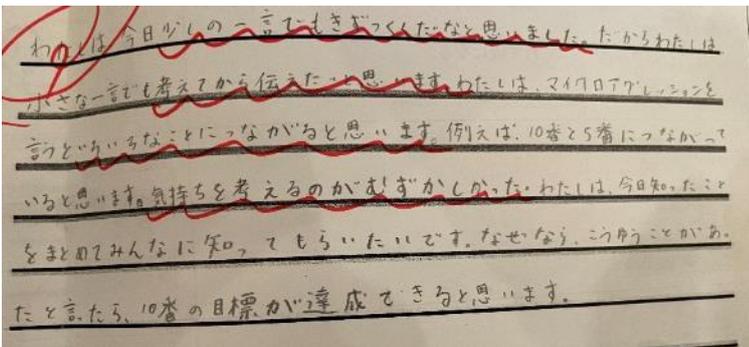
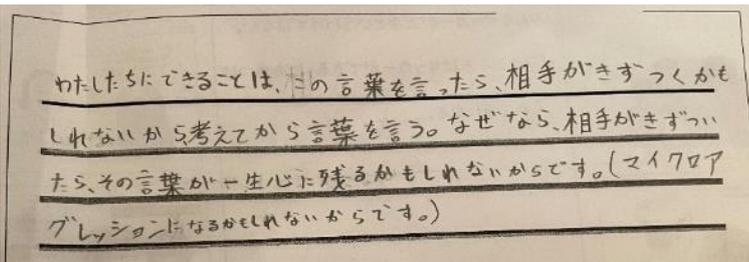
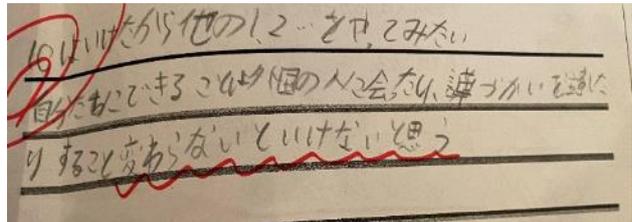
【6】本時の振り返り

- ・本時のめあてである「外国につながるある人たちの思いを考えよう」については、概ね達成できた。しかし、身の回りにあるマイクロアグレッションやこれからの行動について考える時間が少なく、後日振り返りとしてワークシートに書いてもらうこととなった。
- ・自分たちの身近なところにもマイクロアグレッションがあり、些細な言葉で相手を傷つけてしまうこと、声を上げたり相談したりする過程で解決につながれることを最後に確認した。
- ・欠席していた児童はオンライン上で参加してもらい、グループ交流で意見を発表した。

【7】単元を通した児童生徒の反応/変化



振り返りの視点



【感想】

- ・自分でいい感じに声かけたはずなのに、声かけられた人はその言葉できずつくことがあると知った。
- ・〇〇人だからできるとはかぎらないから、サッカーできればしてくれない？とやさしく聞いたらいいと思った。
- ・マイクロアグレッションはされるといやだ。
- ・言う言葉に気をつけてしゃべりたい。

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲があれば記載下さい】

<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs の目標はそれぞれ関連していること、今後 10 年間は「行動につなげる」ということを学び、「次は○番の目標についてもっと知りたい。」「相手がどう思うか一度考えてから言葉を伝えます。」など、具体的に自分には何ができると考えた児童が多かった。発表が苦手な児童も Jamboard の付箋やワークシートに自分の意見を書くことで学習に参加した。
<p>【授業を通じた途上国・異文化・多文化共生等への意識の変容について記載下さい】</p>
<p>(授業前)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年に外国にルーツのある児童が在籍しており、低学年から国際理解の取り組みを行っていた。そのため、異文化に親しむ機会が多く、肯定的に捉えている児童が多かった。 ・その反面、メディア等で海外に関するニュースが取り上げられると、「○○人は…だ」というような決めつけを知らず知らずのうちにしている児童もいた。
<p>(授業後)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ルーツって何？」という児童の質問から外国につながる人々の背景には様々な理由があることを伝えることができた。文化の理解にとどまらず、その人自身を知ろうというきっかけになった。 ・マイクロアグレッションにつながる言動は、外国にルーツのある人だけでなくジェンダーに関する言葉にも関係することから、自分たちの身の回りにもあることだということに気づいた。 ・少数ではあったが、無意識に相手を傷つけている人を見かけたらどのように声を掛けるかと行動につながる意見を考える児童もいた。

【8】自己評価

1. 苦労した点	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた時間の中で児童に外国につながる人たちの思い、身近にあるマイクロアグレッションと解決のためにとる行動を考えさせることが難しかった。振り返りとしてワークシートに書いてもらうことはできたが、全体での共有が不十分であった。 ・SDGs について幅広い切り口からテーマを設定することに苦労した。学年付きの教員や日本語指導で関わっている通訳の方にも相談をしながら、児童の課題に合わせた学習を考えた。
2. 改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・時間配分と内容については、改善する必要がある。 →第 1 時 外国につながる人たちが日常生活の中で感じるマイクロアグレッション 第 2 時 私たちの身の回りにある無意識の差別・偏見と解決に向けて このように今回 1 時間で行った内容を 2 時間構成として設定することで、児童が考える時間と全体で共有する時間が確保できると考える。
3. 成果が出た点	<p>7 枚のカード（事例）から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本名ではなく通称名で生活している人がいること ・祖父母の世代に渡日している関係上、日本で生まれ、育てている人がいること ・ハーフ（ダブル）ということをはっきりと明らかなにしたい人がいること ・日本人のように振る舞うことを求めたり過大評価したりすることは、ちがいの尊重にはつながらないということ ・カミングアウトしたのに「気にしない、今まで通り友だちだ」という言葉は打ち明けたことを無かったことにしている発言とも捉えられること ・○○人と一括りに捉えている発言によって傷つく人がいること <p>について考えることができた。</p> <p>これまで外国にルーツのある人は、仕事など家庭の事情で日本に来ている人とその家族というイメージが大半を占めていた。本授業を通してその背景は様々であり、何気ない一言で相手を傷つけてしまうことがあると多様な見方をするきっかけとなった。</p>

4. 備考（授業者による自由記述）

Jamboard での意見交流(画像は『ちがいでドキドキ多文化共生ナビ』より)

1班

ハーフのきらいなモデルさんもすぐてく大変

ハーフでもそのままだからいいわ

あなたのこと嫌いになるよ

勝手に決めつけて

ハーフじゃダメなの？

なりたくてなったわけじゃない

おらよくらべている感じがして舞

ハーフでも好きな事がある

2班

中庭人だからってなんでも中庭語で喋るの？

中庭人だからってなんでも中庭語で喋るの？

4班

ベトナム人だからって日本では何が違うわけじゃないから別に日本人に似てるって言うの？

それにベトナムって文化が全然と違ってて、日本人だからってベトナム語で喋るの？

ベトナムで暮らすのは、日本人と法律や習慣が全然違うから、大変だよ。

添付資料

- ・『ちがいでドキドキ多文化共生ナビ』
- ⑦「無意識の言葉が心に刺さる～気づいてほしいこの思い～（マイクロアグレッション）」
- 大阪府在日外国人教育研究協議会 2017

参考資料

- ・『こども SDGs なぜ SDGs が必要なのがわかる本』 著：バウンド 監修：秋山宏次郎 2020.7
- ・『SDGs のきほん 未来のための 17 の目標 不平等 目標 10』 著：稲葉 茂勝 監修：渡邊 優 2020.12
- ・NHK for school 動画『社会にドキリ 世界の人々とともに生きる』